

# 武蔵野市第五期基本構想・長期計画策定 圏域別市民会議（武蔵境地区） 議事要録

---

■日 時 平成 23 年 2 月 27 日（日）午後 1 時 30 分～午後 3 時 36 分

■場 所 スイング 11 階 レインボーサロン

■出 席 見城武秀副委員長、  
小竹佐知子委員、近藤康子委員、前川智之委員、作部径子委員、  
会田恒司委員、井上良一委員、  
事務局（企画政策室長、企画調整課長、政策調整担当課長他）  
市 民（26 名）

---

## 議 事

・副委員長より委員紹介、会議の趣旨説明の後、武蔵境地区市民との意見交換が行われた。

【市民】開通予定の市道 2 9 2 号線には、信号機やミラー等の安全設備が何もない。亜大通りの信号が滞ると、その道路にたくさんの車が迂回してくる心配があるので、ぜひ安全対策を行っていただきたい。

【委 員】2 9 2 号線は、道路整備が終わり次第、細かい交通規制や標識等について調整していきたい。

【市民】討議要綱では「歩行者、自転車、自動車の共存」となっているが、共存ではなくて、きちんと分離したネットワークを構築すべきではないか。

【副委員長】きちんとすみ分けを推進していくことが共存の前提と考えている。現在、「市民交通計画」を検討しており、高齢者や障害者を含め、市民が安心して歩けるような交通体系づくりを目指している。

【市民】武蔵境は、豊かな自然資源に恵まれた地区でありながら都市整備も進んでおり、人と自然が共生する高機能の都市をつくっていくポテンシャルが非常に高い。武蔵境地区を生物多様性都市

のモデルとして進めていくということを計画に入れてほしい。

プレイスを、まちづくりと生涯学習が絡みながら豊かな市民活動が発展するような高機能の施設にしていきたい。

さまざまな市民団体が持っているポテンシャルでネットワークを組み生かして、ユニークな武蔵境地区をつくっていきけるような仕組みを整えてもらいたい。

**【副委員長】** 武蔵境地区は非常に素晴らしい自然環境がまだたくさん残っており、きちんと手をかけて保存していくという視点は、これから非常に大事になると思う。

市民活動をいろいろな地域で展開している方たちがネットワークをより強固に築けるような情報提供や、場の提供は、市のこれからの重要課題になっていくと認識している。

プレイスは、市民活動の支援、青少年の支援、生涯学習の3つの機能が有機的につながっていく場所として構想されている。学習とまちづくりがつながるような試みも含めて、市民や青少年に対するさまざまな活動支援が有機的にうまく絡まり合いながら、新しいものを生み出していけたらいい。利用者の方たちが自身でプレイスをよりよい場所にしていきけるような仕組みもできたら理想的だと思う。

**【市民】** プレイスは、一緒に考え、育てていく施設で、オープン後でも、みんなで相談して、よりよい方向を検討していくことが大事だと思う。プレイスの運営委員会でも、そこにきちんと焦点が当たるような運営をしていただきたい。専門的なコーディネーターを置くとか、有志のメンバーの自主的な動きがきちんと育っていくような中間支援の機能を充実していただきたい。

**【副委員長】** NPO等の自発的な団体が活動を継続的に展開していくためには、その自立を支援する中間支援は非常に重要だと思う。プレイスは、そのような方向に沿って市民セクターが担っていくことがベースになると思うが、実際に動き始めてからも、修正をかけながらよりよいものに育て上げていくことが非常に重要な課題となってくる。

**【市民】** 討議要綱の中に「桜堤児童館は、その機能・役割を分散し、将来的に0123施設化を図る」とある。3歳以上の子どもを安心して遊ばせるところがないので、ぜひとも桜堤児童館を残していきたい。

子育て支援施設の再編についての説明は、ほとんどなかった。重要なお知らせは児童館に貼り出すとか、もっと現場の利用者の声を聞いて進めていただきたい。

**【副委員長】** 市民の方が必要とする情報がきちんと届くような仕組みを、今後10年間といわず、すぐ

にでもよりよいものへと高めていきたい。

児童館の問題も含めて、よりよい子育て、子育てとは何だろうかということについて、市民の方のいろいろな知恵を結集して、今後取り組んでいかなければならない。

**【市民】** ゼロ歳から15歳までの幅広い年齢層が利用できる児童館を、なぜゼロ歳から3歳までのたった4年間しか利用できない施設に変えてしまうのか。縦のつながりの中でしか学べないこともある。0123になった場合に、4歳から6歳までの子どもたちが利用できる施設は確保されているのか。

**【副委員長】** ゼロ歳から3歳までを0123、4歳、5歳については境幼稚園が幼保一体施設に移行した境こども園、小中高生は武蔵野プレイスという形で、年齢による横割りの分担という発想で子育て施設の再編を進めている。

子どもたちが育っていく過程で縦のつながりがすごく重要だというご指摘は、本当にそのとおりだと思う。一方で、年齢が違う子どもたちが集まることによって生じるいろいろな問題点もあるので、年齢ごとのすみ分けをしながらも、異なる年齢の人たち同士が接していく機会をきちんと保証していくことが大切だ。異年齢の子どもたちの交流をきちんと確保していくことについては、策定委員会で今後議論していきたい。

**【市民】** 「市民のビジョンとまちづくりの整合」とあるが、いろいろな観点からの市民や団体の要望を整合させるために、具体的にどのような方策をお持ちか。

**【委員】** まちづくりにはいろいろな人々の思いがあり、いかにネットワークをつなげて具体的な施策に持ち込んでいくかが非常に重要だ。建物とか都市計画はあくまで手段で、市民の心の結びつきや、まちに対する愛着をつくっていくことがまちづくりの基本だ。市民の方々の熱い思いや考えをどう吸い上げて、どう形にしていくかという仕組みづくりが、今後の重要な課題になる。

**【市民】** 西部図書館が4月に閉館になるが、プレイスが始まるまでの3カ月間は、どうなるのか。また、その先についての具体的な計画をお示しいただきたい。

**【副委員長】** 西部図書館が閉館してからプレイスがオープンするまでの空白期間については、市民の皆様にご不便が生じないように、市でいろいろ考えていただいていると思う。

図書館の3館整備後の今後の武蔵野市の図書館のあり方を長期計画にどう盛り込むかは、策定委員会で今後検討させていただきたい。

【市民】武蔵野市には生涯学習スポーツ課があり、私も老壮大学というセミナーで学習する機会をいただいたが、生涯学習はいかにあるべきと考えておられるか。

【副委員長】生涯学習は、学校教育と社会教育の区別を乗り越えて、よりトータルに人の学びというものを考えていこうという視点が入った言葉で、その支援は市の非常に重要な役目だと思う。より多様な市民同士のつながりやネットワーク、自分の住んでいる地域を知ることなども広い意味での生涯学習だと思うので、今後も支援していきたい。

【市民】後ろから追い越しする自転車は、必ずベルを鳴らす、これを市役所が徹底してほしい。

道路やいろんな建物をつくっても、いずれは行き詰まる。武蔵境がこれから伸びていくのには、先端科学の根拠地をつくらないとだめだと思う。

【副委員長】道路交通法では自転車にベルをつけることが義務づけられているが、歩行者に対してむやみに鳴らしてはいけないとも書かれている。歩行者を自転車から守ることは非常に重要で、人と自転車と自動車が混在している今の日本の交通行政のあり方について、市民と行政が一緒になって考えていかななくてはいけないと思う。

武蔵野市にはN T Tの開発研究センターがあり、情報通信技術については非常に高い基盤を持ち合わせている。横河という非常にすばらしい企業もある。そういう企業や大学や研究機関が連携しながら、武蔵野市の科学リテラシーを高めていけたらすばらしいと思う。

【市民】討議要綱中で、「本市の自治のあり方について広く議論を行い、自治体運営の基本的なルールづくりについても検討すべきである」となっている。第四期の調整計画でも「検討を進める」だったので、第五期においてはもう少し踏み込んだ表現にしていきたい。

【副委員長】大変重要なご指摘だ。ご意見を十分踏まえながら、策定委員会で議論を進めていきたい。

【市民】長期計画の中で上水道管の耐震化対策はどういう方向で進められているのか。また、現在の耐震化率は何%か。

災害が起きたときの市民への連絡方法は、どうなっているのか。

【委員】上水道管の耐震化率は37.3%で、東京都の約26.2%よりは進んでいる。ただ、五日市街道とか広い道路に入っている幹線の管は、取りかえが進んでいない。そのようなことも踏まえ、東京都との一元化も考えていきたい。

【副委員長】災害時の情報伝達については、むさしのFMが非常にきめ細かな災害情報を市民に向かって発信していく体制が敷かれている。

【委員】武蔵野三鷹ケーブルテレビにも、各ご家庭に情報を直接配信できる仕組みがある。防災行政無線も市内に44カ所ぐらい設置して、災害関連情報を流している。また、デジタル放送の中で緊急放送がキャッチできるようになっている。さまざまな情報伝達手段を駆使してお伝えしていくよう努力をしていきたい。

【市民】情報公開についてだが、292号の道路のことも、桜堤の児童館の問題でも、西部図書館の廃館でも、地元の人に説明はなかった。市は、本当に重大なことについては地元の人を集めて説明をして、納得いくまで話し合ってもらいたい。そういうことを十分踏まえて、確実に市民の声を聞くということを討議要綱に加えていただきたい。

【副委員長】今回の圏域別市民会議で、関係者に情報が伝わってないというご意見を何度も伺い、非常に大きな問題があることは十分認識している。情報をどうやって必要な方に伝えていくか、策定委員会で十分に討議していきたい。地域の方のご要望と市域全体を見渡すような視点は、往々にして相反することがあるが、どういう形で地域の方の要望を入れ、しかも公共的な行政と両立させていくかは、これからの市民自治、地方自治のあり方を考える上で非常に重要だと思うので、策定委員会でさらに議論を深めていきたい。

【委員】情報を伝える前に、まず聞くという作業をしなければ、正しい情報は伝えられない。討議要綱には載っていないが、広聴のあり方についても、今回、積極的にみんなで議論していこうと思っている。意見をおっしゃるといことが、まず市民の義務だと思う。策定委員として、ぜひ皆様とともに作業を進めていきたい。

【市民】コミュニティセンターが私の家からは1.5キロぐらい離れていて、常日ごろのコミュニティ活動に参加できない。この間、一丁目の八十何歳かの要支援のおばあちゃんから、災害時に手助けしてくれる人が欲しいが、どうすればいいのかわからないという相談を受けた。地域に集まれるところがあれば対応できると思うので、ぜひしっかり整備してもらいたい。

【委員】討議要綱の中でも、コミュニティのあり方とかコミュニティセンターの運営の仕方を取り上げている。策定委員会でこれまでもいろいろ議論をしているが、これからも皆様からいろいろなご意見をちょうだいしたい。

【市民】「市民のビジョンとまちづくりの整合」の中に、「市民が、連携し、協力してまちづくりを行っていく必要がある」、さらに、「市役所が条例に基づいて協働を推進すると」とあるが、この後、具体的にどうするというところまで、基本構想にきちんと入れていただきたい。

【副委員長】今後策定委員会で、皆様のご意見を踏まえながら、どう具体化していくかについて議論を深めていきたい。

【市民】市の生涯学習スポーツ課の中で、生涯学習を担当する人数は非常に少ない。組織を見直し、生涯学習についてもっと大きなとらえ方をしてほしい。

【副委員長】生涯学習について市民の方々の間に非常に強い思いや要望があるということは十分認識しており、今後の策定委員会の中での議論に生かさせていただきたい。

【市民】あらゆる人々に開かれていて、平等に意見を出し合い、試行錯誤しながら、立場の違いを乗り越えて合意形成をしていくような場を「公共圏」というが、市は公共圏の形成に本気で取り組むという言葉の基本構想の中に明記してほしい。

市民が安心して職員と協働でまちづくりに取り組むためには、職員がすぐれた能力と意欲を持っていただく必要がある。職員の学習を促進し、そのような職員を育てるということを基本構想の中に明記していただきたい。

【副委員長】市民同士あるいは市民と職員が、お互いの意見を自由に通わせながら合意形成に向けて努力していくことは非常に重要だと思うが、「公共圏」という言葉を基本構想に入れられるかどうかは策定委員会にお任せいただきたい。

職員が市政を進めていく上で、当事者である市民の方たちとどういう関係を持ち、どのようにコミュニケーションをとっていくか、真剣にこれから考えていかなければいけないと痛感しており、策定委員会で議論を深めていきたい。

【市民】市民会館やコミセン等の公共施設の耐震対策は、現在どうなっており、どういう形で長期計画の中で取り入れて進めるのか。

地盤構造や活断層の調査はされているのか。

【委員】学校については、桜堤小を除いて耐震補強が完了している。公共施設の耐震化については、できるところから進めている。

地盤構造や活断層については、武蔵野市独自で調査はしてないが、国の中央防災会議の文献を

見る限り、活断層はないと考えている。

【市民】子ども施設を年齢別にしてしまうと家族全員で利用できる場所がなくなるが、桜堤児童館の閉館後、そのような施設をつくっていただけるのか。

【副委員長】市民会議で頻出してくるテーマが、自分の住んでいる地域に居場所がないという悩みだ。今のお話も居場所の問題の1つのバリエーションだと思うので、策定委員会の中で話し合っていきたい。

【市民】討議要綱に「安心して住み続けるためには、住まい以外にも思い思いにすることができる場所を自ら持つことが重要である」とあるが、これは、役所は余り手を差し伸べない、自助でやってくださいということか。

【委員】「自ら持つ」というのは「自主的に」という意味で、市民が自分で責任を持ちなさいという意味ではないと私は理解している。コミュニティセンターの機能も含め、長期計画の中で、広い意味での居場所のことを考えていきたい。

【市民】居場所は、市民が自分たちでつくる努力をしなければいけない。行政がつくってくれて「はい、どうぞ」では、本当の居場所にはならない。ただ、そのときに行政がどういうサポートができるか。やり過ぎてもいけないし、全く知らぬ顔はもってはいけないと思う。今、私たちは共同で1つの畑を持つコミュニティガーデンを考えている。これは、実際に耕す人たちだけではなく、その野菜を食べてもらう人、そこに来てイモ掘りを一緒にやる幼稚園児、それこそ若いから若きまで、居場所になる可能性がある。こういう初めての試みを市民が一生懸命やろうとしたときに、市はぜひサポートしてほしい。

【副委員長】武蔵野市のコミュニティづくりは自主三原則にのっとり行われてきており、市民の自主性が武蔵野市政の誇りでもある。市民が自分たちでやりたいことを企画し、市が支援をしていくという市民と市の関係のあり方は、もっともっとあってもいいと思う。

————— 了 —————